

令和4年度 事業報告書



学校法人武蔵野音楽学園

目 次

I 学校法人武蔵野音楽学園の概要

1 建学の精神・教育方針	1
2 沿革	1
3 法人本部・設置学校等	2
4 役員・評議員の概要	3
5 教職員の概要	4

II 事業の概要

1 法人

(1)管理運営

ア. ガバナンス・コードの点検・見直し	5
イ. 新学生寮（女子寮）の建設	5
ウ. 楽器ミュージアムの一般公開	5
エ. 学園記念室開室準備の推進	5
オ. 施設・設備の整備	5
カ. 危機管理体制の整備	6

(2)広報活動

ア. 学生・生徒・園児ならびに附属音楽教室生徒の募集に関わる広報	6
イ. ウェブサイトにおける教育研究活動等の公開情報の充実	6
ウ. 公式 SNS（Facebook, Twitter, LINE, Instagram, YouTube）の効果的運用	6
エ. 学園広報誌「MUSASHINO for TOMORROW」の刊行要領の充実	6

(3)学生・生徒・園児募集

ア. 大学	6
イ. 附属高等学校	7
ウ. 幼稚園（第一・第二・武蔵野幼稚園）	8
エ. 附属音楽教室（江古田・入間・多摩音楽教室）	8

(4)SD活動

ア. 全事務職員・専任教員研修会の実施	8
イ. 部署別研修会の実施	9
ウ. 新任研修会（職員）の実施	9
エ. 学外研修会・セミナー等への参加及びチーフ連絡会時における参加報告の実施	9

2 大学

(1)教育研究

ア. 教育	9
イ. 学修支援	10
ウ. 学生支援	11
エ. FD活動	12
オ. 図書館・楽器ミュージアム・学園記念室運営	12
カ. 参考データ（大学）	13

(2)演奏活動 14

(3)社会貢献・地域連携 15

3 附属する学校等

(1)附属高等学校 15

(2)幼稚園（第一・第二・武蔵野幼稚園） 16

(3)附属音楽教室（江古田・入間・多摩音楽教室） 17

Ⅲ 財務の状況

令和4年度決算の概要	19
------------	----

I 学校法人武蔵野音楽学園の概要

1 建学の精神・教育方針

本学園は、建学の精神を「〈和〉のこころ」と定め、教育方針として「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」を掲げている。

この建学の精神と教育方針に基づき、音楽芸術についての深い学識と技術を教授し、かつ人間性豊かな人材を育成して、広く我が国の文化芸術の振興に寄与することを目的としている。

加えて、礼儀 (Propriety)、清潔 (Purity)、時間厳守 (Punctuality) の3つに基づく生活の規範を平素の生活において、学生のみならず、教職員にも実践することを求めている。

2 沿革 (附属高等学校、幼稚園及び附属音楽教室を除く)

昭和 4(1929)年	武蔵野音楽学校設置認可
昭和 7(1932)年	財団法人及び専門学校令による武蔵野音楽学校設置認可
昭和 17(1942)年	教員無試験検定取扱い許可学校に指定
昭和 19(1944)年	私立専門学校整備に関する文部省専門教育局長通達により「武蔵野女子音楽学校」に校名変更
昭和 21(1946)年	男子生徒入学再開
昭和 24(1949)年	武蔵野音楽大学音楽学部設置認可
昭和 25(1950)年	短期大学部第2部設置
昭和 26(1951)年	財団法人武蔵野音楽学校から学校法人武蔵野音楽学園へ組織変更、大学別科 設置認可
昭和 27(1952)年	短期大学部第1部設置
昭和 28(1953)年	大学及び短期大学部に専攻科設置
昭和 29(1954)年	教育職員免許法に定める課程 (教職課程) 認定
昭和 30(1955)年	江古田キャンパス1号館竣工
昭和 33(1958)年	音楽学部第2部設置
昭和 35(1960)年	江古田キャンパスにコンサートホール「ベートーヴェンホール」竣工
昭和 39(1964)年	大学院音楽研究科修士課程設置 (器楽専攻、声楽専攻、作曲専攻)
昭和 40(1965)年	音楽学部音楽学学科及び音楽教育学科設置
昭和 42(1967)年	江古田キャンパスにコンサートホール「モーツァルトホール」竣工、「武蔵野音楽大学楽器博物館」開館
昭和 44(1969)年	大学院音楽研究科修士課程に音楽学専攻、音楽教育専攻設置
昭和 46(1971)年	入間キャンパス開設
昭和 51(1976)年	大学音楽学部 入間キャンパスにて授業開始、入間キャンパスに「図書館・楽器博物館棟」竣工
昭和 54(1979)年	入間キャンパスにコンサートホール「バッハザール」竣工
昭和 58(1983)年	短期大学部第2部廃止
昭和 61(1986)年	短期大学部第1部廃止
平成 元(1989)年	音楽学部第2部廃止
平成 5(1993)年	音楽教育研究施設「武蔵野音楽大学パルナソス多摩」開設、同施設にコンサートホール「シューベルトホール」竣工
平成 16(2004)年	大学院音楽研究科博士後期課程設置
平成 18(2006)年	音楽学部ヴィルトゥオーソ学科設置、「武蔵野音楽大学楽器博物館」博物館相当施設に指定 (東京都教育委員会)
平成 19(2007)年	音楽学部音楽環境運営学科設置、博物館法に定める学芸員課程設置
平成 22(2010)年	大学院音楽研究科修士課程器楽専攻・声楽専攻にヴィルトゥオーソコース設置
平成 23(2011)年	大学別科募集再開
平成 24(2012)年	「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」の進行に伴い、「武蔵野音楽大学楽器博物館」博物館相当施設の指定解除
平成 27(2015)年	「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」の進行に伴い、コンサートホール「ベートーヴェンホール」を除く江古田校舎解体

平成 29 (2017) 年	江古田キャンパス内のベートーヴェンホールを除くすべての校舎の新築工事の竣工、ベートーヴェンホールの耐震補強工事を含む改修工事ならびにむらさき寮の耐震補強工事の完了 武蔵野音楽大学音楽学部の 7 学科組織から 2 学科組織への再編・統合による演奏学科・音楽総合学科設置
平成 30 (2018) 年	大学院音楽研究科修士課程にピアノコラボレイティブアーツコース設置
令和 2 (2020) 年	大学院音楽研究科博士後期課程の研究領域（器楽）有鍵楽器研究分野 ピアノコラボレイティブアーツ設置
令和 3 (2021) 年	武蔵野音楽大学楽器ミュージアム開館

3 法人本部・設置学校等

学校法人 武蔵野音楽学園

所在地 176-8521 東京都練馬区羽沢 1-13-1 電話番号 03-3992-1121
理事長 福井直敬

武蔵野音楽大学

所在地 176-8521 東京都練馬区羽沢 1-13-1 電話番号 03-3992-1121
学長 福井直昭

武蔵野音楽大学附属高等学校

所在地 358-8521 埼玉県入間市中神 728 電話番号 04-2932-3063
校長 福井直昭

武蔵野音楽大学第一幼稚園

所在地 176-0002 東京都練馬区桜台 6-13-3 電話番号 03-3991-0741
園長 新井和子

武蔵野音楽大学第二幼稚園

所在地 173-0037 東京都板橋区小茂根 4-13-2 電話番号 03-3956-5955
園長 関根弘美

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

所在地 358-8521 埼玉県入間市中神 741-1 電話番号 04-2932-1640
園長 塚田雄二

武蔵野音楽大学附属音楽教室

江古田音楽教室 176-8521 東京都練馬区羽沢 1-13-1 電話番号 03-3994-7536
入間音楽教室 358-8521 埼玉県入間市中神 741-1 電話番号 04-2932-1111
多摩音楽教室 206-0033 東京都多摩市落合 5-7-1 電話番号 042-389-0711
主管 村上直行

4 役員・評議員の概要 (令和4年4月1日現在)

役員の定数 理事の定数 5～7 人 現員数 6 人 監事の定数 2 人 現員数 2 人

	氏 名	常勤・非常勤	就任年月日
理事長	福 井 直 敬	常 勤	理事長 平成 10 年 2 月 24 日 理 事 昭和 54 年 1 月 30 日
理 事	福 井 直 昭	常 勤	平 成 22 年 3 月 1 日
理 事	石 丸 雍 二	非常勤	平 成 26 年 4 月 1 日
理 事	古 池 好	非常勤	令 和 4 年 3 月 1 日
理 事	耕 修 二	非常勤	平 成 19 年 3 月 1 日
理 事	野 村 邦 武	非常勤	平 成 20 年 4 月 1 日
監 事	岸 田 讓	非常勤	平 成 11 年 3 月 31 日
監 事	濱 田 芳 貴	非常勤	平 成 27 年 2 月 26 日

役員賠償責任保険の契約の状況について、上記役員を被保険者として、役員賠償責任保険に加入しています。

評議員の定数 11～15 人 現員数 13 人

氏 名	常勤・非常勤	就任年月日
福 井 直 敬	常 勤	昭 和 57 年 3 月 3 日
福 井 直 昭	常 勤	平 成 17 年 4 月 1 日
秋 田 賀 文	非常勤	平 成 31 年 3 月 1 日
石 丸 雍 二	非常勤	平 成 21 年 3 月 4 日
上 原 正 子	非常勤	平 成 28 年 3 月 1 日
古 池 好	非常勤	平 成 17 年 4 月 1 日
末 吉 孝 司	常 勤	令 和 2 年 4 月 1 日
耕 修 二	非常勤	令 和 4 年 3 月 1 日
富 山 英 明	非常勤	平 成 28 年 3 月 1 日
長 尾 立 矢	非常勤	令 和 4 年 3 月 1 日
野 村 邦 武	非常勤	平 成 20 年 4 月 1 日
林 孝 治	常 勤	平 成 25 年 2 月 25 日
村 上 論	常 勤	令 和 3 年 3 月 4 日

5 教職員の概要 (令和4年5月1日現在)

	学校	本務	兼務	計
教 員	大学・大学院	62	199	261
	附属高等学校	7	10	17
	第一幼稚園	8	0	8
	第二幼稚園	8	0	8
	武蔵野幼稚園	4	0	4
	計	89	209	298
職 員	大学・大学院	84	9	93
	附属高等学校	1	0	1
	第一幼稚園	0	4	4
	第二幼稚園	0	2	2
	武蔵野幼稚園	1	6	7
	計	86	21	107

Ⅱ 事業の概要

学校法人武蔵野音楽学園は、教育関連法令及び本学園の寄附行為の定めに従い教育を施し、社会の要請に応えうる人材の育成と、我が国の文化芸術の振興に寄与するため、令和4年度は以下の項目を重点目標に掲げ、各種事業を推進した。

- (1)大学・附属高等学校・幼稚園・附属音楽教室の教育研究の充実・向上
- (2)学生・生徒・園児の確保
- (3)財務・経営基盤の充実と強化
- (4)新学生寮（女子寮）の建設
- (5)大学機関別認証評価結果を踏まえた改善・充実
- (6)楽器ミュージアムの一般公開
- (7)学園記念室開室準備の推進

以上の目標に基づき推進された各種事業について、「法人」「大学」「附属する学校等」に区分して記述する。

1 法人

(1)管理運営

ア. ガバナンス・コードの点検・見直し

理事会において、適合状況の点検結果とガバナンス・コードの一部改訂について審議し、その結果をウェブサイトにて公表した。点検では、事態発生時の事業継続計画について未整備であり一部不適合と判定したため、早急に事業継続計画を整備することとした。

イ. 新学生寮（女子寮）の建設

江古田キャンパスから徒歩3分の立地に、「音楽と空間を行き来する」を設計コンセプトとした全室個室（105室）、練習室（21室）、広い共用スペースを備えた新学生寮（女子寮）の建設工事を、令和6年1月の完成を目指し開始した。管理運営や防犯対策についても協議を重ね、利便性と快適性に配慮しつつ、オートロックシステムの採用や複数の防犯カメラを設置することにより、セキュリティ対策を強化することとした。

ウ. 楽器ミュージアムの一般公開

令和4年4月から、予約制による曜日を限定した一般公開を開始した。学外からの一般見学者数は大人（中学生以上）1,292名、小学生129名、他38名の合計1,459名であった。

エ. 学園記念室開室準備の推進

本学園の教育の原点とその発展成長の軌跡を広く内外に展示公開することを目的とした学園記念室を令和6年度末までに開室させることを目指し、その展示内容について検討を重ねた。

オ. 施設・設備の整備

- ・福利厚生施設として保有していた軽井沢高原研修センターの取り扱いについては以前から検討を重ねていたが、近年の利用者数の減少、加えてコロナ禍となり更に学生や教職員の利用の機会が減少したため、再度検討協議を行い売却した。
- ・法定点検等を行った上、入間キャンパス1・2号館の外壁補修工事、入間キャンパス内コンサートホール（パッハザール）の空調設備工事、江古田キャンパス特定建築物定期検査、幼稚園非常放送設備の改修工事、耐震点検等、必要な改修保全工事を実施した。
- ・附属高等学校について、文科省の「GIGAスクール構想」への対応を更に推進すべく、附属高等学校内のインターネット環境を強化した。

カ. 危機管理体制の整備

- ・危機管理マニュアルの更新及び教職員への周知

これまでの危機管理マニュアルは、自然災害、不審者対応、感染症対策を主な事象としてその対応策を記してあるが、現代社会に於いてはコンプライアンス遵守、情報流出への対策、ハラスメント事象への対応なども欠かせないため、起こり得る多様な事象に対応する総合的な危機管理マニュアルの整備に着手した。

- ・避難訓練の実施

令和4年度については新型コロナウイルス感染症の拡大から実施を見送ったが、再開に備え、令和5年度の実施計画を作成した。

- ・防災用備蓄品の拡充

災害用備蓄用品の飲食物 300 名分を追加購入し、江古田キャンパスと女子学生寮（むらさき寮）に分配した。また、附属高等学校には非常時に備えた必要人数分の飲料水を配置した。

(2) 広報活動

ア. 学生・生徒・園児ならびに附属音楽教室生徒の募集に関わる広報

ウェブサイトにて学生募集関連のイベント情報や入学者選抜に関する情報を掲載した他、キャンパスガイド（大学）、スクールガイド（高校）を作成し、志願者やステークホルダーに本学の魅力を発信した。広告掲載としては、音楽之友社の「音楽大学案内」及び「音楽大学入試問題集」の裏表紙に全面広告を掲載した他、音楽関連雑誌、各種音楽コンクール、音楽高校や同窓会主催のコンサートのプログラム等にも学園の広告を掲載した。この他、「ショパン」やリクルート系の受験専門誌などに記事を掲載した。また、交通広告については、池袋駅、江古田駅、新桜台駅、初台駅、横浜駅に設置の看板広告を楽器ミュージアムの画像を使用した新デザインへ変更した。

イ. ウェブサイトにおける教育研究活動等の公開情報の充実

ウェブサイトにて、本学の演奏会・公開講座情報・授業発表等の教育研究活動を広く公開し、多くの一般聴衆の来場にも繋げることができた。

ウ. 公式 SNS（Facebook, Twitter, LINE, Instagram, YouTube）の効果的運用

学生生徒募集関連イベント、入学者選抜情報、演奏会・公開講座情報の他、高校・幼稚園・音楽教室などの情報も活発に発信した。また、「学生からのメッセージ」など、工夫をこらした記事も発信した。

エ. 学園広報誌「MUSASHINO for TOMORROW」の内容の充実

令和4年度は6月、10月、2月に発行した。巻頭に学長と著名人の対談を掲載した他、卒業生へのインタビュー、音楽学コースの講師によるコラムやニュース、学生生徒募集関連イベント情報、入学者選抜情報、各コンサートや公開講座の情報、寄附を頂いた方の芳名を掲載し、新たに「楽器ミュージアムレター」コーナーを加え、内容の充実を図った。

(3) 学生・生徒・園児募集

ア. 大学

- 「オープンキャンパス」の実施

5月から翌年の3月にわたり、計7回実施した。大学案内、入学者選抜説明会、保護者説明会、体験レッスン、学生によるコンサート、キャンパスツアー、演奏学科専攻別説明会、音楽総合学科コース別説明会&体験授業、学生との懇談、個別相談を行った他、新規に作成した各コースリーフレットを配付した。併せて7月は大学院進学説明会、11月はロビーコンサート、3月は音楽総合学科のコース説明会&合同卒業研究発表会を開催した。

○「地方都市での学校説明会&体験レッスン」の実施

5月から7月にわたり、新潟、静岡、福岡、水戸、長野、横浜、郡山、千葉、札幌、仙台、名古屋、岡山、大分、観音寺の14会場で実施した。ガイダンス、本学教員によるミニコンサート、体験レッスン、進学相談を行った。

○「中高生のためのステップアップ・プログラム」の実施

9月から翌年の3月にわたり、個人レッスンと進学相談を実施内容とするステップアップ・レッスンを実施した。また、令和4年度より各専攻（ピアノ、声楽、管楽器、打楽器、弦楽器）ごとの実施回数を年2回から年3回とした。

○公開レッスン・進路ガイダンスへの講師派遣等

全国の高等学校からの依頼を受け、公開レッスン、体験レッスン、楽典・ソルフェージュ体験授業、メンタルトレーニング講座、アートマネジメント入門などのための講師派遣を実施した。また、系統別ガイダンス、学校説明ガイダンスなどへ職員を派遣し、本学の案内を行った。

○教職員による教育実習校及び推薦指定校等への訪問

5月から7月、9月から10月の期間に教職員が教育実習受け入れ校及び本学推薦指定校を訪問した。教育実習受け入れ校では在学生の学生生活の様子を報告し、研究授業等を参観した。また、推薦指定校では指定校通知書を手交し、学校推薦型選抜の説明を行った。

○入学者選抜直前対策の実施

一般選抜受験生を対象にした入学者選抜直前対策を1月に実施し、入学者選抜説明会、楽典試験対策講座、模擬面接、模擬実技試験、課題小論文・口頭試問対策講座、個別相談を行った。

○大学受験講習会（夏期、秋期、冬期、春期）の実施

8月の夏期受験講習会、12月の冬期受験講習会、3月の春期受験講習会に加え、新たに9月に秋期受験講習会を実施した。各受験講習会の実施内容は、専攻別レッスン、楽典（基礎・応用）の講座、課題小論文講座、入学者選抜説明会、専攻別説明会、ピアノ・管楽器・打楽器・弦楽器・声楽の公開レッスン、キャンパスツアー、図書館ツアー、ホールツアー、個別相談とした。

○大学院進学説明会の実施

在学生、卒業生、他大学生等を対象に、アドミッション・ポリシーや学修内容等について説明会を実施した。全体説明の後には、専攻や楽器等に分けて、試験科目等についての説明を6月、7月に実施した。

イ. 附属高等学校

○「オープンキャンパス」の実施

5月から11月にわたり実施された計7回の大学のオープンキャンパスにて、高等学校の案内、入試概要の説明、体験レッスン、進学アドバイス、在校生によるコンサートを行った。

○「小・中学生のための高校説明会（体験レッスン・体験授業）」の実施

7月、10月、11月に、ガイダンス、体験レッスン、ソルフェージュや作曲家等についての体験授業、個別相談、在校生によるコンサートを実施内容とする「小・中学生のための高校説明会」を開催した。

○「中学生のための音楽基礎講座」の実施

4月から翌年の1月にわたり、計11回実施し、音楽理論、コールユーブンゲン、聴音、体験レッスン、個別相談を実施した。また、1月の開催時には入試対策直前講座として模擬試験を実施した。

○「体験レッスン&パーソナルアドバイス（個別相談）」の実施

4月から12月にわたり、計10回実施し、体験レッスンや受験相談を行い、参加者と直接対話のできる貴重な機会となった。

○埼玉県や地域と共同で実施するイベントの実施

小学生を対象とした埼玉県主催の職業体験イベント「リアル体験教室」にて「音楽家になりたい」の分野を附属高等学校で実施した。入間キャンパスのコンサートホール（バッハザール）にて、オルガン演奏と在校生の演奏を披露し、参加者へのオルガン、ピアノ、声楽、管打楽器、指揮、作曲など、コース別の体験レッスンを実施した。

○高校受験講習会（夏期、秋期、冬期、春期）の実施

8月の夏期受験講習会、12月の冬期受験講習会、3月の春期受験講習会に加え、新たに9月に秋期受験講習会を実施した。各受験講習会の実施内容は、専攻別レッスン、ソルフェージュ、進学アドバイス、入学試験概要説明、在校生による演奏会、個別相談とした。

ウ．幼稚園（第一・第二・武蔵野幼稚園）

○プレ幼稚園の実施（第一・第二幼稚園）

令和4年度は、前期に6回、後期に3回のプレ幼稚園を開催した。第一、第二幼稚園ではウェブサイトに掲載案内を掲載しポスター掲示も行いながら登録者を募集したが、未就園児自体の減少もあり登録者数は減少した。次年度の登録者数増加を目指し、募集時期や案内周知の方法について検討を重ねた。

○公開保育・園庭開放の実施（全幼稚園）

公開保育として、日常保育に加えオルフ、バイオリン、体操、英語など、コロナ禍のため回数を減らし実施した。園庭開放は、在園児向けには降園後、未就園児向けにはプレ幼稚園後に実施した。また、武蔵野音楽大学学生の演奏による鑑賞会「子どものための音楽会」や「ひな祭り音楽会」の開催時には、プレ幼稚園に登録している未就園児を招待し、特色をPRした。

○附属音楽教室との連携による行事等の相互周知（全幼稚園）

定例会議を実施し、情報共有の強化を図った。第一、第二幼稚園では、音楽教室の園児募集ポスター掲示、パンフレットを未就園児の入園説明会にて配付した。第二幼稚園では、オルフ保育公開にて音楽教室のPRを行った。武蔵野幼稚園では、入間音楽教室による「特別体験教室」として無料体験レッスンを4回実施した。

エ．附属音楽教室（江古田・入間・多摩音楽教室）

○体験教室（レッスン・クラス授業、楽器演奏等の体験企画）の実施（全音楽教室）

各音楽教室において、楽器体験レッスン、クラス授業（オルフ・ソルフェージュ）を実施した。クラス授業については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら実施した。

○「附属幼稚園新入園児保護者説明会」における生徒募集の実施（江古田・入間音楽教室）

各幼稚園において、入園時に保護者・園児に附属音楽教室の「音楽教室要項」・「生徒募集チラシ」・「体験教室のチラシ」を配付し、説明会を実施した。

○武蔵野幼稚園児を対象とした「特別体験教室」の実施（入間音楽教室）

附属音楽教室の入室者増加を目指し、武蔵野幼稚園において計4回（7月・1月各2回）の特別体験教室を実施した。

(4)SD活動

ア．全事務職員・専任教員研修会の実施

学園の全事務職員、技術職員及び大学専任教員、高等学校専任教員、幼稚園教諭を対象とした研修会を3月に実施した。学長より教育方針、管理運営、重要な事業計画、業務運営上の留意すべき事項等についての説明、講話があり、教職員は「これから本学園に求められること」「教職協働への一人一人の意識改革」「個々の資質の向上を図る」などについて必要性を再認識した。

イ. 部署別研修会の実施

第6期中期計画（令和4～8年度）の初年度（令和4年度）に計画されている各項目について、担当部署ごとに進捗状況を確認分析し、次年度以降の計画に反映した。

ウ. 新任研修会（職員）の実施

新任職員に向けた新任研修会を実施した。学長より「建学の精神」「大学の基本理念」の講話があり、各部長から、「社会人としての心構え」「勤務上必要な知識」等の説明を行った。

エ. 学外研修会・セミナー等への参加及びチーフ連絡会時における参加報告の実施

日本私立大学協会、私学研修福祉会、日本高等教育評価機構、日本私立学校振興・共済事業団、国立国会図書館等26主催の研修会に39名の職員が参加し研鑽を積んだ。その中で、学生生活指導部課長相当者研修会に参加した職員の研修報告を行った。

2 大学

(1)教育研究

ア. 教育

○大学機関別認証評価結果を踏まえた改善・充実

本学では学部、大学院ともに「3つのポリシー」を包括的に定めていたが、音楽学部については学科・コースごとの特性に鑑みた内容を追加し、大学院音楽研究科については博士前期課程（修士課程）の各専攻および博士後期課程の研究領域ごとの特性に鑑みた内容を追加し、令和6年度入学志願者に対する周知を開始した。また、学則を大幅に見直した他、履修規則を新設するなどの整備を行った。

○入学者選抜の募集学科・コースの拡大についての検討

令和5年度入学者選抜試験から、総ての学部1年次入学者選抜に於いて、演奏学科の全コース及び音楽総合学科の全コースを募集することとした。また、年度内に6回実施した入学者選抜の合格実績を踏まえながらヴィルトゥオーゾコースの受験回数制限を検討し、令和6年度入学者選抜からは一般選抜C日程でのヴィルトゥオーゾコースの募集を行わないこととした。

○入学者選抜の実施時期と実施回数についての検討

受験生のニーズへの的確な対応と志願者獲得を目指し、令和6年度生募集の入試から大学院音楽研究科博士前期課程（修士課程）入学試験の実施回数を1回から2回に増やすことを決定した。

○入学者選抜の試験科目についての検討

検討の結果、試験科目の変更は行わず、その運用方法について、従来第1年次一般選抜の器楽コース有鍵楽器（ピアノ）の専攻実技試験の課題Aと課題Bを別々に演奏するとしていたが、令和6年度入学者選抜試験より、課題Aと課題Bを同時に演奏することとした。

○大学教育課程の見直し・検討

音楽学部全学科共通の自由科目第3年次前期「オペラ概論」を「オペラ史Ⅰ」に、後期「オペラ史」を「オペラ史Ⅱ」へ変更を行い、それらを令和5年度の学則に規定し、ナンバリングと履修系統図を見直した。また、令和6年度適用を目途として副科実技の選択肢及び履修数を増やすことを決定し、科目名称、単位数、ナンバリング、カリキュラムマップ、履修条件、履修料金等の詳細について、検討を開始した。

○学修成果の把握、評価方法の運用

ディプロマ・ポリシーで求めている学生が身に付けるべき「11の知識・能力等」のうち、どの知識・能力等を単位修得時に身に付けられたのかをレーダーチャートで可視化できる機能を備えたポータルシステム「武蔵野音楽大学ユニバーサルパスポート」の「学修ポートフォリオ」を運用しているが、令和4年度からは、学生自身がレーダーチャートで累積学修度を確認できる評価

方法の運用を開始した。

○学修ポートフォリオの本格運用

学修ポートフォリオにおける「学生が身につけるべき 11 の知識・能力等」のレーダーチャートの数値データを分析した結果を審議し、学修成果を可視化した。

○学内実技試験における成績分布の分析による点数区分の改定

令和 4 年度の実技試験では、令和 3 年度に改定された新基準により採点を行った。

○入学前教育の充実

従来、入学前教育の一環として、総合型選抜合格者のみに図書館の利用と主催演奏会の聴講の機会を作っていたが、令和 6 年度学校推薦型選抜（指定校）の合格者にもこれを適用することを決定した。

○初年次教育の充実

専門的な学修の開始に際し、基礎的なスキルとして礼儀作法と汎用的能力を習得させながら学生としての自覚を高め 4 年間の学びを動機付けるため、学部の新入生を対象とした「初年次教育」を実施した。世界的に活躍している演奏家（本学教員）による「ステージマナー」の講座、本学教員による「レポート作成の方法」、さまざまな業種の資格を有した職員による「社会人としてのマナー」「メールの書き方」といった実践的なプログラムを開講した。

○高大連携授業の検討

附属高校と連携し、実施科目や単位の付与について検討を行った。大学では、高大連携の制度に「武蔵野音楽大学科目等履修生規則」を適用するため、規則の整備を行った。

○大学院教育課程の見直し・検討

授業履修年限の幅を拡げるため、「楽書講読」の科目開設と単位数の調整、「歌曲重唱」「歌劇重唱」「西洋古学実習」「雅楽実習」「箏実習」の単位数の調整、その他、一部授業では科目名称の変更を行い、それらを令和 5 年度の大学院学則に規定した。

○学生による授業評価アンケート（クラス授業・レッスン）の実施と結果の検証

クラス授業・レッスンそれぞれの学生による授業評価アンケートを実施し、その結果について各教員が「授業改善向上計画書」を作成し、大学として対応すべき事項について検証を行った。

○科学研究費助成事業への申請の促進

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、科研費申請のための対面での説明会実施は見送ったが、学内ポータルサイト（武蔵野音楽大学ユニバーサルパスポート）を通して「令和 5 年度科研費の応募について」を 5 月に、また、「令和 5 年度科研費の公募について」を公募開始時期の 8 月に発信し、教員へ周知を行った。また、申請や採択に向けた事務支援体制の強化を図った。

イ．学修支援

○留学生に対する日本語能力水準の向上に向けた教育内容の充実と習熟度別クラス編成の検討

留学生の日本語能力レベルの格差を是正するため、1 年次の「日本語Ⅰ」「日本語会話」、2 年次の「日本語Ⅱ」「日本事情」の 4 科目について習熟度別クラスを編成し、教材、教育内容・方法、指導法を充実させた。

○休学・退学の防止のための指導・支援の充実

休学・退学の主な理由には、①経済的な理由、②修学上の問題、③心身の健康上の理由があるが、①については本学独自の奨学金の充実及び各種奨学金の取り扱い、学費納入に対する柔軟な対応を実施、②については学務部各課の相談対応、新入生の個人面談等により適性、習熟度、進路希望等、学生が抱える悩み・問題の早期把握に努め、③については、保健室や心理カウンセリングで対応した他、個人レッスンを特徴とした本学の指導・支援体制及び教職連携にて対応した。

○T Aの補助業務内容及び組織的な研修要領の検討

「和声」及び「ソルフェージュ」で活用しているT Aに対し、「T A研修会」を行うための準備を行い、研修項目を「研修趣旨」、「武蔵野音楽大学T A規則について」、「T Aとしての心構え、対教員・対学生に対する関係性の構築の仕方、指導方法、トラブル対処法などの説明」、T A経験者からのアドバイス、科目別研修と定めた。

ウ. 学生支援

○就職支援の充実

- ・音楽大学出身者の専門性や特性を活かせる企業等への就職希望者を対象に、それぞれの進路に特化した説明会等を実施した。
- ・一般企業への進路希望者へ向けたインターンシップに関する特別ガイダンスを実施した。
- ・教員採用試験の合格者数増加を目的として、教員と就職課員との連絡協議会を実施し、既存の講座の実施方法等を検討したほか、公立教員採用試験の内容変更等の情報を共有した。
- ・アートマネジメントコース在籍学生の進路希望を把握しながら音楽系企業への訪問等を行い、新たな進路先やインターンシップ先の開拓を行った。また、学生の進路希望状況等の情報を共有するため、アートマネジメントコース教員と就職課員との連絡協議会を実施した。

○留学生支援体制の充実

個人面談、学生相談、窓口対応等により、留学生が抱えている問題や求めている支援内容の把握に努めた。また、留学生支援には言語の問題が伴うが、各課窓口での相談対応などのため、AI通訳機を導入した。

○専門カウンセラーの対応日数等の検討

令和4年度の心理カウンセリングの対応件数が前年度を上回ったため、カウンセラーの対応日数や対応時間数を増やすことについて検討を行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあると考え、次年度の対応実績を見ながら再検討することとした。

○学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

- ・新入生への個別面談に先立ちオンラインアンケートを実施し、まず意見や要望等を把握の上、アンケートへの各記載内容について面談による確認を行った。その内、授業の実施方法等に改善を要すると判断したものについては当該教員に改善を要請した。また、学費納入に関する相談や障害を持つ学生からの合理的配慮についての相談等もあり、それらの相談には心理カウンセリングや学生課員による対応により、学生の抱える問題点等の丁寧な把握に努めた。
- ・学生の持つ意見や要望を把握し反映させていくことを目的とし、全学年を対象とした「学生満足度調査」を、学内ポータルシステム「武蔵野音楽大学ユニバーサルサポート」を使用して実施した。収集したデータを集計・分析し、その分析結果は学生満足度向上のために活用した。

○新学生寮（女子寮）の運営体制についての検討

来年度の運営開始に向け、安全体制に関する検討会を重ね、日中の管理業者の選定を開始した他、夜間の警備体制についても警備会社との契約が最終検討段階に入っている。また、寮規則の策定、入寮・移転に伴う諸準備についても十分な検討を行った。

○避難訓練の実施、防災・防犯に関する資料の作成・配付

「災害時の対応について」の小冊子を新入生に配付した。また、女子学生寮では新型コロナウイルス感染症拡大への対応策として、グループを2つに分け、避難訓練を実施した。

エ. FD活動

○大学全教員・主任以上職員研修会の実施

学園の全教員（大学専任教員・非常勤教員、高等学校非常勤教員、音楽教室非常勤教員、主任以上職員）を対象とした研修会を4月に実施した。学長より学園の教育方針、主要な事業計画、管理運営や業務運営上留意すべき事項の講話や説明、大学部長からはハラスメントについての諸注意伝達があり、参加した教職員は「大学に求められること」、「教職協働における一人一人の意識改革」「個々の質の向上」の必要性を再認識した。

○部会単位のFD活動の実施

「FD実施規則」に基づき、各部会の教育内容やその方法の質の向上を図るため、部会単位のFDの実施を要請し、報告書の提出を求めた。また、各部会で取り組んだFD実施事項及び分析結果をFD委員会で発表し審議を行い、部会間の共通課題についても情報共有を図った。

○新任研修会（教員）の実施

新任教員に向け新任研修会を実施し、学長より建学の精神と大学の基本理念についての講話、また、各所属のコース長または部会長より、授業や勤務上必要な知識等の説明を行った。

オ. 図書館・楽器ミュージアム・学園記念室運営

○図書館

・学修支援（情報リテラシースキルの育成）

新型コロナウイルス感染拡大防止のための入構制限により中止となった項目もあるが、適切な文献指導及びレファレンスサービス、テーマ企画展については予定通り実施した。令和4年度は「図書館スキルアップ講座」を新規で計画、また、新たな学修支援サービスの一つとして、学生の昼休みを利用し、「10分でわかる！」シリーズを企画し実施した。

・研究支援（学術情報資源の維持及び整備）

令和3年度に新規のデータベースや電子書籍、電子図書館を導入し、令和4年度は、その利用状況を適宜調査し、教員と協力して利用促進を図り、研究・学修支援の強化を行った。

・社会貢献（機関リポジトリによる研究成果の充実と外部機関との学術情報の共有）

機関リポジトリのコンテンツの発信及びNII（国立情報学研究所）との連携による目録データベースの質の向上及びオンライン共同分担目録方式により、全国規模の総合目録データベースの形成及び他大学図書館等との書誌情報と所在情報を共有することで、学術情報の向上を図った。

・閉架書庫の効率化

研究成果物の電子化作業を行い利用者の利便性を向上させた。また、利用者の要望に応じた資料の適正配置を実施した。

○楽器ミュージアム

・入間キャンパス収蔵庫の整備

入間キャンパス楽器収蔵庫内の棚を種類別に整備した。主に8月～9月に収蔵庫整備を集中的に行った。

・所蔵楽器の保守・点検

令和4年度は、江古田キャンパスの展示室の全楽器を点検し、位置台帳を作成した。入間キャンパスにおいても一部資料の点検を行った。また、弦楽器、管楽器の修理を行った。

・学内外の学芸員課程実習生の受け入れ

学芸員課程実習生を16名受け入れ、「楽器の計測」「標本台帳づくり」「企画展示の検討と展示作業」「展示室の清掃」「写真撮影」などの実践的な内容で実習を行った。

○学園記念室

- ・内部レイアウトの検討及び展示品の選定・整備

内部レイアウトについて検討し、展示什器について業者との打合せを行い、什器設営の第1期の工事を行った。また、展示資料の選定、展示レイアウトの内容がほぼ決定し、展示作業を開始した。

カ. 参考データ（大学）

■教育研究組織 令和4年5月1日現在

音楽学部

演奏学科

器楽コース・声楽コース・ヴィルトゥオーゾコース

音楽総合学科

作曲コース・音楽学コース・音楽教育コース・アートマネジメントコース

大学院音楽研究科

博士前期課程（修士課程）

器楽専攻 器楽コース・ヴィルトゥオーゾコース・ピアノコラボレィティヴアーツコース

声楽専攻 声楽コース・ヴィルトゥオーゾコース

作曲専攻

音楽学専攻

音楽教育専攻

博士後期課程

音楽専攻

器楽領域・声楽領域・作曲領域・音楽学領域・音楽教育領域

別科 器楽コース・声楽コース・作曲コース・指揮コース

■教員の経歴・業績等は、本学ウェブサイトに掲載

■学生に関する情報

【学生数等】 （令和4年5月1日現在）

学部・研究科等	入学定員	入学者数	収容定員	現員数	収容定員 充足率
音楽学部	300	224	1,230	1,006	81.8%
音楽研究科博士前期課程 （修士課程）	65	64	130	133	102.3%
音楽研究科博士後期課程	10	1	30	15	50.0%
別 科	80	69	80	69	86.3%

(2)演奏活動

○合奏・合唱団体の定期公演

コロナ禍のため、混声合唱団演奏会は開催ができなかった。また演奏旅行の実施もできなかったため、管弦楽団演奏会を学内コンサートホールで開催した。いずれも演奏内容には高い評価を得た。

武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会

日 時：令和4年9月19日（月・祝） 6：00p.m. 開演
会 場：武蔵野音楽大学ベートーヴェンホール
日 時：令和4年9月21日（水） 6：30p.m. 開演
会 場：東京オペラシティ コンサートホール
指 揮：北原 幸男

武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会

日 時：令和4年12月1日（木） 6：30p.m. 開演
会 場：東京オペラシティ コンサートホール
指 揮：円光寺 雅彦

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会

日 時：令和4年7月19日（火） 6：30p.m. 開演
会 場：東京オペラシティ コンサートホール
指 揮：武田 晃

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会

日 時：令和4年12月13日（火） 6：30p.m. 開演
会 場：東京オペラシティ コンサートホール
指 揮：飯森 範親

武蔵野音楽大学室内合唱団演奏会

日 時：令和4年12月6日（水） 6：30p.m. 開演
会 場：ベートーヴェンホール
指 揮：栗山 文昭、片山 みゆき

○公開講座シリーズ

- ・ケマル ゲキチ ピアノリサイタル
- ・グレッグ ニュムチュク ピアノリサイタル
- ・オレグ クリサ ヴァイオリンコンサート&公開講座
- ・イリヤ イーティン ピアノリサイタル
- ・武蔵野音楽大学室内合唱団演奏会

○学内コンサート

- ・新人演奏会（大学音楽学部卒業生、大学院修士課程修了生）
- ・卒業演奏会
- ・ニューストリーム・コンサート
- ・選抜学生によるコンサート
- ・大学院修士課程在学学生によるコンサート
- ・作曲専攻学生による作品発表
- ・オペラ試演会
- ・学生による演奏会
- ・授業研究発表
- ・作曲コース教員による作品発表会

(3)社会貢献・地域連携

○免許法認定講習の開講

中学校の「音楽」の2種免許状から1種免許状への上級免許状の資格取得、中学・高校の他教科教員の「音楽」の教員免許状の資格取得、音楽科教員の他校種の隣接免許状の資格取得ができる免許法認定講習を、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防策を講じながら対面方式にて実施した。

○音楽指導者のためのセミナー等の実施

指導者や小学校・中学校・高等学校の教員を対象とした本学教員による「音楽指導者セミナー」を10月に実施した。セミナー終了後は情報交換会も実施した。また、弦楽器、ピアノ、声楽の指導者を対象とした指導法講座を、9月、11月、12月、3月に開催したステップアップレッスン(SUP)と同日に実施した。

○地域連携コンサート等の開催

本学学生によるソロや室内楽の演奏を各地域のイベントや演奏会等へ派遣した。

- ・練馬区：小竹の森音楽祭、四季の香ローズガーデン、石神井公園ふるさと文化館
- ・中野区：中野区民センター演奏会、中野シルバー祭り
- ・入間市：アミーゴ「武蔵野音大の名手たち」

○江古田キャンパスプロジェクトへの継続参加：西武鉄道、日本大学芸術学部、武蔵大学

令和4年度の江古田キャンパスプロジェクトは、西武鉄道と江古田にある三大学が協力し、企画・プロモーションを武蔵大学、写真撮影を日大芸術学部、作曲と演奏を本学が担当した。江古田に関係の深い人物にスポットを当てたスライドショーに本学の学生が作曲した作品が使用され、デジタルサイネージなどで表示された。

○陸上自衛隊中央音楽隊への「音楽教育（個人レッスン・講義）」への講師派遣

令和4年度については、音楽理論（吹奏楽法、和声学及び楽曲分析）、音楽実技（指揮法、ソルフェージュ等）及び各個奏法（楽器別レッスン）について、本学の29名の教員を指導講師として派遣した。

○江古田音楽祭への継続的な参画

キャンパスを置く東京都練馬区江古田地域で開催される江古田音楽祭について、本学ではベートヴェンホール（コンサートホール）を開催会場として無償提供した。

○練馬区・武蔵野音楽大学共催公開講座の実施

大学等の教育資源を地域に開放し、練馬区民の学習機会の充実を図ることをその目的とし、練馬区との共催にて「音楽におけるスタイル（様式）とは？」のタイトルで講座を開催し、101名の参加があり、区民から高評を得た。

○福井直秋生誕145周年記念演奏会

本学創立者福井直秋生誕145周年を記念し、出身地である富山県上市町の（一財）上市町健康文化振興財団・本学同窓会富山県支部が主催した演奏会に、招待演奏者として福井直昭学長（共演：清水弘治講師）、佐藤美枝子声楽コース長（共演：瀧田亮子講師）が出演し高評価を博した。

3 附属する学校等

(1)附属高等学校

○創立50周年記念事業実施計画の検討

令和5年度に創立50周年を迎える附属高等学校記念事業として、令和5年11月に在校生と卒業生による記念コンサートの実施を計画した。

○学校評価（自己評価及び学校関係者評価）の実施

学校自己評価及び学校関係者評価を実施し、その評価結果を教員間で共有した上、反省点・改善点を踏まえ、教員のスキルアップと活動内容の見直しをすべく協議を行った。

○新学習指導要領の改訂に伴う新教育課程の実施

新学習指導要領の改訂に基づき新教育課程を作成した。また、全教員研修会や授業研修等で、教員の指導力・教育力の向上改善を図った。

○ICT環境の整備（GIGAスクール構想への対応）

文科省の「GIGAスクール構想」に基づき学習者用コンピュータ端末の整備を進めるべく、校内のインターネット環境の整備に向けた準備を進め、校内のインターネット環境の整備の一環として、端末機器を用いた学習の増加を見据え、LTE通信機器（移動式Wi-Fi機器）を整えた。

○「ソルフェージュ（聴音）」「英語」の習熟度別クラス編成の実施

「ソルフェージュ（聴音）」については1年生を2クラス、2、3年生合同で3クラス、「英語」については1年生を2クラスに分けた習熟度別のクラスを編成し、基礎学力の向上と専門知識の習得を図った。

○「高大連携授業」の検討

令和5年度「和声」の高大連携授業の実施に向けて大学と協議を行い、単位の付与等、詳細について決定した。

○FD・SD活動の実施（全教員研修会、授業研究会）

FD・SD活動として、全教職員研修会、専任教員研修会、附属高等学校全教職員研修会、授業研究会等を実施し、それぞれ検証を行い、課題・対策・改善点・向上方策等を整理し、教育活動全般、運営、生徒募集活動、授業実施方法等に関する教員の教育力等の充実に向けた活動を行った。

○在校生と卒業生によるコンサートの開催

「第26回 在校生と卒業生によるコンサート」を江古田キャンパスブラームスホールで9月に開催し、選抜された在校生と本校を卒業した大学生の代表者が演奏を披露した。

○地域に根差した文化・芸術活動の推進

入間市、飯能市、日高市の各市の教育委員会の後援で行っている「ドリームコンサート2023」を入間キャンパスバッハザールで2月に開催した。また、入間市文化創造アトリエAMIGO!において、「アミーゴで《J. S. バッハ》」（ナビゲーター：本校教諭 演奏：本校生徒）と題し、11月と12月に計2回のシリーズにて開催した。

○防災教室、避難訓練の実施

安全管理体制を図り、災害に備え、災害時に的確に対応ができるよう、防災訓練を5月と11月に実施し、生徒の防災意識の向上を図った。

(2)幼稚園（第一・第二・武蔵野幼稚園）

○学校評価（自己評価・内部評価を含む）の準備及び実施

各幼稚園において、全職員の自己評価・内部評価、役員会でのアンケートによる内部評価を実施し、全体を客観的に省察し、次年度の課題について報告した。

○教職員研修の実施による幼児教育・保育内容の充実、保育計画の改善

- ・三園合同研修会では、大学において、附属音楽教室講師による指導法講座とワークショップを実施した。
- ・学園研究指定公開保育として第一幼稚園がオルフ研究発表を行い、終了後の協議会では各担任と附属音楽教室講師で、今後のオルフ保育のあり方について議論した。

○音楽教育（オルフ・メソッド、音感、保育バイオリン）の充実

- ・オルフ・メソッド及びソルフェージュについての職員研修の実施

- ・バイオリンは、附属音楽教室講師による指導を週に2回行い、12月と3月の発表会で演奏を披露した。

○三園合同音楽鑑賞会の開催

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により三園合同での実施を控えていたが、令和4年度は3年振りに三園合同の鑑賞会をホールにおいて実施した。

○各幼稚園による音楽会・表現的あそび等による発表会の開催

- ・各園では、12月にバイオリン、木琴、打楽器による合奏、合唱、オルフ・メソードによる表現、また生活発表として劇やオペレッタによる「子ども会」を園内ホールにおいて開催した。
- ・2月～3月には各幼稚園により園内、入間、江古田の大学キャンパス内の大ホールにおいて「音楽会」をそれぞれ開催し、第二幼稚園では未就園児親子を招待した。

○子育て支援事業（預かり保育、課外教室等）の実施

- ・第一幼稚園は年度途中より朝の預かり保育を開始し、第二幼稚園と武蔵野幼稚園は、年度当初から朝と降園後の預かり保育を実施した。
- ・課外教室としては、総合体育研究所によるスポーツと英語のレッスン、学研による未就園児教室を実施した。

○三園合同連絡会開催による連携の強化

三園合同連絡会を3回開催し、年間行事予定、合同研修会、園児募集とその対策、合同音楽会修了記念品について協議し、連携を図った。

○FD・SD活動の実施（三園合同研修会、オルフ保育研究会）

FD活動として7月に江古田キャンパス内にて三園合同研修会を、またSD活動として1月に第一幼稚園にてオルフ研究発表会を実施した。

○大規模地震その他災害発生を想定した避難訓練等の実施

各幼稚園において、7回の避難訓練、引き取り訓練、消防署立合訓練、防犯訓練、また、職員のAED研修、応急救護救命講習を実施した。

○附属音楽教室との連絡協議会の実施

附属音楽教室と三園との連絡協議会を行い、令和5年度の行事及び園児・生徒募集、附属音楽教室の前期入室試験等について意見交換を行い、今後の対策について協議した。

(3)附属音楽教室(江古田・入間・多摩音楽教室)

○「ジョイントコンサート」「クリスマスコンサート」等の各種コンサートの開催

ジョイントコンサート、クリスマスコンサート等の各種コンサートは、十分な感染予防対策を講じながら、入場者数を制限して実施した。

○「夏期ミュージックキャンプ」の実施

毎年、三音楽教室合同で実施している夏期ミュージックキャンプは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした。

○FD活動としての講師研究会の実施

教育方法及び教育内容の充実・向上を図るため、講師2名の指導法を基本とした研究発表を全講師が聴講し研鑽を積んだ。また、研究会終了後にレポートを提出し、相互研究を行った。

○講師演奏会の実施

講師の演奏技術向上と講師の教育研究の充実を図るため講師演奏会を実施した。演奏会は十分な感染予防対策をとり、入場者数の制限も行いながら実施した。

○「受験コース」のカリキュラムの見直し

大学の入学者選抜の試験科目の変更に伴い、実技模擬試験・課題小論文指導等の内容について、検討を行った。

○印刷物（生徒募集要項・チラシ等）の充実

各音楽教室において体験教室・幼稚園説明会・各コンサート等の印刷物を作成、その配付方法を変更し、参加者数を増加させることが出来た。

○幼稚園との連絡協議会の実施

附属幼稚園と連絡協議会を実施し、音楽教室の生徒募集について協力を要請した。また、在園児の音楽教室在室・退室情報を共有し連携の強化について討議した。

Ⅲ 財務の状況

令和4年度決算の概要

令和4年度の決算報告書は、令和5年5月26日の本学園理事会で承認された。
学校法人会計基準に基づいて作成された収支決算の概要は以下のとおりである。

教育活動収支では、収入面で在籍者数の減少などにより予算比マイナス約1億円弱となり、支出面で人件費、教育研究経費が予算比減少したものの、教育活動収支差額は約6億9千万円の支出超過となった。

教育活動外収支では、資金運用環境の悪化により受取利息・配当金が概ね半減し予算比約1億円強下振れたものの、教育活動外収支差額は約1億5千万円の収入超過となった。

以上の収支に、施設設備売却差額などを含む特別収支を加えた、基本金組入前当年度収支差額は、予備費を使用しなかったものの予算比マイナス約1億1千万円となる約5億2千万円の支出超過となった。

資金収支面では、新学生寮用地購入代金に係る前期末未払金支払については施設設備売却収入の一部を充当したかたちとなったことなどから約43億円を次期に繰り越すことができ、また引き続き借入金もなく資金繰りに不安はない。

積立金・引当金関係では、期中受け入れた寄付金に対して、建設引当特定資産を9百万円、第3号基本金引当特定資産を2千万円それぞれ積み増したが、退職給与引当特定資産については、退職給与引当金の減額に伴い、1億3千万円の取崩しを行った。これらの特定資産の一部は、本学園資産運用管理規則に基づき、信用度の高い公社債や上場株式、投資信託などで資金を運用し本年度末の時価総額は133億6千万円であり貸借対照表計上額を約2億5千万円上回っている。

財 産 目 録
令和5年3月31日

I 資産総額	52,285,458,284 円
内 基本財産	28,776,915,291 円
運用財産	20,110,277,672 円
収益事業用財産	3,398,265,321 円
II 負債総額	3,639,399,915 円
III 正味財産	48,646,058,369 円

区 分		金 額
資産額		
1 基本財産		
土地	552,006 m ²	10,123,918,405 円
建物	79,411 m ²	15,223,545,299 円
図書	301,390 冊	1,094,117,709 円
教具・校具・備品	23,288 点	1,172,602,150 円
その他		1,162,731,728 円
2 運用財産		
現金預金		4,301,613,936 円
その他		15,808,663,736 円
3 収益事業用財産		
		3,398,265,321 円
資 産 総 額		52,285,458,284 円
負債額		
1 固定負債		
長期借入金		0 円
その他		1,980,428,767 円
2 流動負債		
短期借入金		0 円
その他		1,649,523,148 円
3 収益事業負債		
		9,448,000 円
負 債 総 額		3,639,399,915 円
正味財産(資産総額－負債総額)		48,646,058,369 円

貸 借 対 照 表

令和5年 3月 31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	47,805,143,640	49,821,175,452	▲ 2,016,031,812
有形固定資産	28,920,885,446	30,400,887,344	▲ 1,480,001,898
土地	10,130,672,979	10,963,218,336	▲ 832,545,357
建物	15,223,545,299	16,226,095,105	▲ 1,002,549,806
その他の有形固定資産	3,566,667,168	3,211,573,903	355,093,265
特定資産	14,707,077,777	15,242,816,091	▲ 535,738,314
その他の固定資産	4,177,180,417	4,177,472,017	▲ 291,600
流動資産	4,470,872,774	4,082,355,768	388,517,006
現金預金	4,301,613,936	3,903,467,603	398,146,333
その他の流動資産	169,258,838	178,888,165	▲ 9,629,327
資産の部合計	52,276,016,414	53,903,531,220	▲ 1,627,514,806
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	1,980,428,767	2,110,358,098	▲ 129,929,331
長期借入金	0	0	0
その他の固定負債	1,980,428,767	2,110,358,098	▲ 129,929,331
流動負債	1,649,523,148	2,628,452,769	▲ 978,929,621
短期借入金	0	0	0
その他の流動負債	1,649,523,148	2,628,452,769	▲ 978,929,621
負債の部合計	3,629,951,915	4,738,810,867	▲ 1,108,858,952
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	48,963,137,640	51,047,008,857	▲ 2,083,871,217
第1号基本金	45,140,487,863	46,818,550,766	▲ 1,678,062,903
第2号基本金	209,617,918	634,969,111	▲ 425,351,193
第3号基本金	3,343,031,859	3,323,488,980	19,542,879
第4号基本金	270,000,000	270,000,000	0
繰越収支差額	▲ 317,073,141	▲ 1,882,288,504	1,565,215,363
翌年度繰越収支差額	▲ 317,073,141	▲ 1,882,288,504	1,565,215,363
純資産の部合計	48,646,064,499	49,164,720,353	▲ 518,655,854
負債及び純資産の部合計	52,276,016,414	53,903,531,220	▲ 1,627,514,806

資金収支計算書

令和 4年 4月 1日から
令和 5年 3月 31日まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,548,330,000	2,514,325,550	34,004,450
手数料収入	26,300,000	28,300,485	▲ 2,000,485
寄付金収入	30,000,000	40,680,124	▲ 10,680,124
補助金収入	290,000,000	281,013,344	8,986,656
国庫補助金収入	150,000,000	168,954,900	▲ 18,954,900
地方公共団体補助金収入	140,000,000	112,058,444	27,941,556
資産売却収入	0	1,382,390,000	▲ 1,382,390,000
付随事業・収益事業収入	217,143,000	190,934,136	26,208,864
受取利息・配当金収入	246,556,000	134,884,186	111,671,814
雑収入	239,120,000	189,107,199	50,012,801
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,354,000,000	1,312,783,800	41,216,200
その他の収入	1,085,000,000	780,078,052	304,921,948
資金収入調整勘定	▲ 1,750,000,000	▲ 1,460,657,410	▲ 289,342,590
前年度繰越支払資金	2,782,228,000	3,903,467,603	
収入の部合計	7,068,677,000	9,297,307,069	▲ 2,228,630,069
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	2,382,909,000	2,375,580,287	7,328,713
教育研究経費支出	591,100,000	580,404,652	10,695,348
管理経費支出	405,500,000	469,141,774	▲ 63,641,774
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	910,000,000	461,216,627	448,783,373
設備関係支出	123,000,000	43,583,371	79,416,629
資産運用支出	20,000,000	28,412,113	▲ 8,412,113
その他の支出	405,000,000	1,338,054,197	▲ 933,054,197
〔予備費〕	(0)		
	200,000,000		200,000,000
資金支出調整勘定	▲ 280,000,000	▲ 300,699,888	20,699,888
翌年度繰越支払資金	2,311,168,000	4,301,613,936	▲ 1,990,445,936
支出の部合計	7,068,677,000	9,297,307,069	▲ 2,228,630,069

活動区分資金収支計算書

令和 4年 4月 1日から
令和 5年 3月 31日まで

(単位 円)

科 目		金 額
教育活動による資金収支	収入	
	学生生徒等納付金収入	2,514,325,550
	手数料収入	28,300,485
	特別寄付金収入	31,703,879
	一般寄付金収入	107,011
	経常費等補助金収入	281,013,344
	付随事業収入	174,159,136
	雑収入	189,107,199
	教育活動資金収入計	3,218,716,604
	支出	
	人件費支出	2,375,580,287
	教育研究経費支出	580,404,652
	管理経費支出	469,141,774
	教育活動資金支出計	3,425,126,713
差引		▲ 206,410,109
調整勘定等		109,711,179
教育活動資金収支差額		▲ 96,698,930
科 目		金 額
施設整備等活動による資金収支	収入	
	施設設備寄付金収入	8,869,234
	施設設備売却収入	1,382,390,000
	第2号基本金引当特定資産取崩収入	434,220,427
	施設設備等活動資金収入計	1,825,479,661
	支出	
	施設関係支出	461,216,627
	設備関係支出	43,583,371
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	8,869,234
	施設設備等活動資金支出計	513,669,232
差引		1,311,810,429
調整勘定等		▲ 1,079,140,866
施設整備等活動資金収支差額		232,669,563
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		135,970,633
科 目		金 額
その他の活動による資金収支	収入	
	借入金等収入	0
	その他の収入	169,966,083
	小計	169,966,083
	受取利息・配当金収入	134,884,186
	収益事業収入	16,775,000
	その他の活動資金収入計	321,625,269
	支出	
	借入金等返済支出	0
	第3号基本金引当特定資産繰入支出	19,542,879
	その他の支出	39,049,186
	小計	58,592,065
	借入金等利息支出	0
	その他の活動資金支出計	58,592,065
差引		263,033,204
調整勘定等		▲ 857,504
その他の活動資金収支差額		262,175,700
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)		398,146,333
前年度繰越支払資金		3,903,467,603
翌年度繰越支払資金		4,301,613,936

事業活動収支計算書

令和 4年 4月 1日から

令和 5年 3月 31日まで

(単位 円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		学生生徒等納付金	2,548,330,000	2,514,325,550	34,004,450
		手数料	26,300,000	28,300,485	▲ 2,000,485
		寄付金	22,000,000	31,810,890	▲ 9,810,890
		経常費等補助金	290,000,000	281,013,344	8,986,656
		国庫補助金	150,000,000	168,954,900	▲ 18,954,900
		地方公共団体補助金	140,000,000	112,058,444	27,941,556
		付随事業収入	200,800,000	174,159,136	26,640,864
		雑収入	239,120,000	202,375,699	36,744,301
		教育活動収入計	3,326,550,000	3,231,985,104	94,564,896
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	2,382,909,000	2,258,919,456	123,989,544
		教育研究経費	1,091,100,000	1,011,609,617	79,490,383
		管理経費	555,500,000	648,644,282	▲ 93,144,282
		徴収不能額等	1,000,000	0	1,000,000
		教育活動支出計	4,030,509,000	3,919,173,355	111,335,645
教育活動収支差額		▲ 703,959,000	▲ 687,188,251	▲ 16,770,749	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	246,556,000	134,884,186	111,671,814
		その他の教育活動外収入	16,343,000	16,775,000	▲ 432,000
		教育活動外収入計	262,899,000	151,659,186	111,239,814
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額		262,899,000	151,659,186
	経常収支差額		▲ 441,060,000	▲ 535,529,065	94,469,065
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	0	35,596,184	▲ 35,596,184
		その他の特別収入	8,500,000	9,847,259	▲ 1,347,259
		特別収入計	8,500,000	45,443,443	▲ 36,943,443
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	0	28,570,232	▲ 28,570,232
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	0	28,570,232	▲ 28,570,232
		特別収支差額		8,500,000	16,873,211
	〔予備費〕		(0)		
		200,000,000		200,000,000	
基本金組入前当年度収支差額		▲ 632,560,000	▲ 518,655,854	▲ 113,904,146	
基本金組入額合計		▲ 1,033,000,000	▲ 28,803,018	▲ 1,004,196,982	
当年度収支差額		▲ 1,665,560,000	▲ 547,458,872	▲ 1,118,101,128	
前年度繰越収支差額		▲ 1,290,267,000	▲ 1,882,288,504	592,021,504	
基本金取崩額		0	2,112,674,235	▲ 2,112,674,235	
翌年度繰越収支差額		▲ 2,955,827,000	▲ 317,073,141	▲ 2,638,753,859	
(参考)					
事業活動収入計		3,597,949,000	3,429,087,733	168,861,267	
事業活動支出計		4,230,509,000	3,947,743,587	282,765,413	

監 査 報 告 書

令和 5年 5月 25日

学校法人 武蔵野音楽学園

理 事 会 御中

学校法人 武蔵野音楽学園

監事

岸 田 謙

監事

濱 田 光 貴

私たちは、学校法人武蔵野音楽学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて
同学園の令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）における財産目録
及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び附属明細表）を含め、
学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務の執行の状況について監査を行いました。

私たちは、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を受け、重要な
決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施いたしました。また、私立学校振
興助成法第14条第3項に基づき監査を実施した長谷川公認会計士事務所から監査の報告及び
説明を受け、計算書類等に検討を加えました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録
及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、
学校法人の業務又は財産の状況若しくは理事の業務の執行の状況に関し、不正の行為又は法令
若しくは寄附行為に違反するような重大な事実はないものと認めましたことを報告いたします。

以 上

監 査 報 告 書

令和 5年 5月 25日

学校法人 武蔵野音楽学園

評 議 員 会 御中

学校法人 武蔵野音楽学園

監事 岸 田 謙
監事 濱 田 芳 貴

私たちは、学校法人武蔵野音楽学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて
同学園の令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）における財産目録
及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び附属明細表）を含め、
学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務の執行の状況について監査を行いました。

私たちは、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を受け、重要な
決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施いたしました。また、私立学校振
興助成法第14条第3項に基づき監査を実施した長谷川公認会計士事務所から監査の報告及び
説明を受け、計算書類等に検討を加えました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録
及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、
学校法人の業務又は財産の状況若しくは理事の業務の執行の状況に関し、不正の行為又は法令
若しくは寄附行為に違反するような重大な事実はないものと認めましたことを報告いたします。

以 上